

「ハバロフスク地方国際ビジネスデイ」に関する報告

ERINA 経済交流部長
安達祐司

6月10～12日、ロシア極東のハバロフスク市で開催された「ハバロフスク地方国際ビジネスデイ」（以下、国際ビジネスデイ）に、新潟県、新潟市及び県内企業2社とともに「新潟県」として参加した。

1. 国際ビジネスデイの趣旨と背景

この国際イベントは、ハバロフスク地方政府の主催により初めて開催されるもので、同地方で生産される工業製品及び農林水産物・その加工品の対外輸出を中心とした貿易取引や、海外からの投資及び外国人観光客の誘致促進を目的としている。このため、3日間に亘り同地方及び海外の企業や地方自治体がブースを設けて自社製品やサンプル、パンフレット等のPR展示を行ったほか、企業同士のマッチングのためのBtoB商談会、ハバロフスク地方の輸出・投資・観光に関するプレゼンテーション、地元企業やビジネスマン向けに対外商取引のノウハウに関するセミナー等が開催された。

また、このイベントと並行して一般市民向けに農林水産物や加工食品、木工製品等を展示販売する「Наш выбор 27」（私たちの選択27）が開催された。こちらのイベントは、自分たちの土地で生産さ

れる良質な農林水産物・加工品、木工品等の軽工業品を、まずは「選択」し消費しようという、いわゆる地産地消を目的としている。ちなみに、“27”という数字は、ロシア連邦の各構成体に付けられた識別番号であり、ハバロフスク地方を表す。つまり、ロシア語のイベント名は、「私たちが選択するのは27番（=ハバロフスク地方）」とも訳されるだろう。

これら2つのイベントは、ハバロフスク地方の農林水産物・加工品、重・軽工業製品の品質、潜在力を一般市民、行政、企業等地方全体で評価し、選択し、そし

て海外に売り込もうというコンセプトでつながっている。

また、国際ビジネスデイの開催には次の背景があるとされている。

- (1) 2018年3月1日に行われたプーチン大統領の年次教書演説において、今後6年間で非原料品の輸出を2倍に増やすという国家課題が示されたこと
- (2) 2012年のAPEC開催や近年の東方経済フォーラム開催などによりインフラ整備も進み、海外からも脚光を浴びているウラジオストクに対抗し、極東連邦管区の本部が置かれた極東の中心地域とし



て従来から盛んであった重化学工業や林業、木材加工業等の産業を核に貿易や投資の拡大により発展を図ること

2. ハバロフスク地方の概要

国際ビジネスデイの概要について記述する前に、イベントの前提となる同地方の概要に触れておく(出所:ハバロフスク地方政府)。

【概況】

- 面積:787600km²(国内第4位、日本の約2倍)
- 人口:約130万人
- GRP:116億ドル
- 州都:ハバロフスク市(人口:約57万人、地方政府及び極東連邦管区の本部が所在、2018年開都160周年)

【主な産業→極東連邦管区全体の産業生産額の64.2%を占める】

- 航空機製造:コムソモリスク・ナ・アムール市において、スホイ戦闘機「Su35」や旅客機「スホイ・スーパージェット SSJ100」を製造し、一部は輸出
- 造船:コムソモリスク・ナ・アムール市において潜水艦や艦船、民生用船舶を製

貿易相手国別シェア

相手国	シェア(%)
中国	54.6
韓国	17.0
日本	5.6
英国	5.3
米国	3.0
スイス	2.8
ドイツ	1.6
その他	10.1

主な輸出入品

輸 出		輸 入	
品 目	シェア(%)	品 目	シェア(%)
木材・木製品	32.7	自動車・関連製品	57.6
航空機・部品	19.0	鉄鋼・鉄製品	10.6
水産物	14.7	化学品	8.6
燃料・エネルギー	13.2	繊維製品・靴	6.7
鉄鋼・鉄製品	5.3	食品・農産品	6.3
その他	15.1	その他	10.2
合 計	100.0	合 計	100.0

造。ハバロフスク市においても軍用・民生用船舶を製造

- 林業:面積の67%が森林地帯で、森林資源量(51億m³以上)は極東連邦管区内で第1位、木材や製材品、木工製品は主要な輸出品目
- その他:鉱業、石油精製、輸送・通信など

【外国貿易】

- 2016年の外国貿易額:19億5930万ドル(輸出額:15億4570万ドル)(輸入額:4億1360万ドル)

【交通網】

- シベリア鉄道、BAM 鉄道
- 高速道路:チター-ハバロフスク、ハバロフスク-ウラジオストク、ハバロフスク-ナホトカ
- 主な港湾:ソヴェツカヤ・ガヴァニ、ヴァニノ、ニコラエフスク・ナ・アムール
- 国際空港:新ハバロフスク空港

【経済特区(投資誘致区域)】

優遇措置:法人税・資産税5年間免除、社会保険料10年間・7.6%

- ハバロフスク社会経済発展区域:
ラキートノエ … 製造
空港 … ロジスティクス
アヴァンギャルド … 農業ビジネス(日系企業による温室野菜栽培施設が操業入居)
- コムソモリスク社会経済発展区域:
パルス … 機械製造、プラントエンジニアリング
アムールイマシュ … 機械製造、プラントエンジニアリング
ホルドミ … 観光、レクリエーション
アムールスク … 製造
農業ビジネス特区 … 農業ビジネス

- ニコラエフスク社会経済発展区域
ニコラエフスキー、ロンガリ、ミス・ベトロフスコヴォ、オレミフ、イノケンチエフカ、ミス・コシュカ … 水産加工、船舶修理、ロジスティクス
- ヴァニノ自由港

3. 国際ビジネスデイの概要

国際ビジネスデイは、6月10日~12日、ハバロフスク市内を流れるアムール川沿いに立地する屋内陸上競技場で開催された。また、冒頭で紹介した地産地消イベント「Наш выбор 27」(私たちの選択27)は隣接する公園(屋外)で開催された。ちなみに、6月12日は「ロシアの日¹」で祝日であり、開催期日の10日(日)~12日(火)は3連休であった。

主催者であるハバロフスク地方政府の発表によると、参加規模は以下の通り。

- ハバロフスク地方の参加企業・教育・研究機関:83
- 国内外参加者(一般見学者を除く):約450人
- 海外参加国(参加人数):中国(173)、日本(26)、韓国(14)、米国(4)、ベラルーシ共和国(4)、北朝鮮(3)、モンゴル(3)、インド(2)、マレーシア(1)、ベトナム(1)

ハバロフスク地方にとって、中国が最大の貿易相手国であることを背景に、出展規模・参加人数とも同国のプレゼンスが際立って大きく、開会式では、ハバロフスク地方のヴァチエスラフ・シュボルト知事に続き、黒龍江省人民政府の王文涛省長が開会の挨拶を行った。

また、国際ビジネスデイの主目的がハバロフスク地方の工業製品や農林水産物・その加工品の対外輸出の拡大であったことから、同地方を代表する航空機製造、造船、木材をベースとする建材や家具メーカーなどが規模の大きな出展を行っていた。

このほか、企業同士のマッチング・個別取引のためのBtoB商談会が、事前申し込みに基づき行われた。また、別会場でハバロフスク地方政府による同地方の輸

¹ 1990年6月12日、当時のロシアソビエト連邦社会主義共和国の最高会議議長であったボリス・エリツィンが国名をロシア共和国と改称し、国家主権宣言を行った。1994年から国の休日となった。

開会式で挨拶を行うシュポルト知事と黒龍江省・王文涛省長



(出所) ハバロフスク地方政府

出拡大、海外からの投資や観光客の誘致を促進するためのプレゼンテーションが行われた。

さらに、ハバロフスク地方の企業やビジネスマン向けに対外取引に関するノウハウやモチベーションの向上を図るためのセミナー等も同時並行で実施された。

国際ビジネスデイの全体プログラムは以下の通り。

〈6月10日〉

- 開会式
- 展示会、BtoB (終日)
- 合意文書調印

〈6月11日〉

- 展示会 (終日)
- ハバロフスク地方の輸出・投資・観光プレゼンテーション (午前)
- セミナー等ビジネスプログラム (終日)
 - ・「起業からビジネスへ」
 - ・「起業の経験:成功と失敗」
 - ・「ロシア極東のビジネス環境が好適な理由」
 - ・「ロシアとアジアにおけるインターネットビジネス、ウェブデザインの動向」
 - ・「ロシア国内外での海外パートナー探し、外国企業との業務の実態」
 - ・「中国への輸出」
 - ・「全世界でのビジネスパートナー探し—ズベルバンクのユニークなプロジェクト」
 - ・「モスクワとの衛星中継テレビ会議」
 - ・「アジア太平洋諸国間のコミュニケーション」
 - ・「ロシア・中国間のコミュニケーションの特徴」
 - ・「米国からロシアへ—成功に向けて」

〈6月12日〉

- 展示会 (午前中)
- 韓国海運連合 (KSP)・韓国貿易投資振興公社 (KOTRA) による報告「ハバロフスク地方の輸出の現状と展望」(非公開)

4. 日本の参加概要

国際ビジネスデイには日本から、自治体として新潟県、北海道、兵庫県が参加したが、新潟県が2ブース (1ブース6㎡) による商品サンプル、観光パンフレットやポスターの展示、北海道が1ブースによる観光

新潟県ブース



(出所) 筆者撮影

新潟県ブースを訪れたシュポルト知事と黒龍江省・王省長



(出所) ハバロフスク地方政府

パンフレット・ポスターの展示を行った。兵庫県は職員による視察のみであった。なお、北海道からは副知事が参加し、ハバロフスク地方のプレゼンテーションにおいて挨拶を行った。

主催者発表による自治体以外の参加としては、三井物産ハバロフスク駐在事務所、双日ハバロフスク駐在事務所、北海道銀行、ロシア NIS 貿易会 (モスクワ事務所長)、Lファーム、日立モスクワ事務所、JBIC であったが、日本企業独自のブース出展はなかった。

新潟県のブースにおいては、新潟市内に本社を置き、対ロシア貿易を専門に行っている商社(株) JSN と(株)アルゴナフトが県産商品サンプルの展示を行ったほか、新潟県の観光ポスターの掲示と観光パンフレットの配布を行った。JSN は、新潟県産の米を使ったレトルト雑炊、日本茶、雪室コーヒー、ゼリー等の加工食品やフライパン、鍋、包丁などの台所用品、また、アルゴナフトはプラスチック製スコップやスノウダンプといった除雪用品のほか、プラスチック製収納ケースなどのサンプル展示により、いずれも新潟県産品の PR を実施した。なお、両社ともこれまでは、ウラジオストクを中心に事業を展開しており、今回初めてハバロフスクでの展示会出展となった。また、両社とも主催者に事前に個別企業を指定し、BtoB 商談に臨んだ。

5. 成果と課題

今回の国際ビジネスデイはハバロフスク地方にとって初めての試みであり、海外の参加機関、企業に対しては展示ブース、展示台、椅子などの備品レンタルを無料としたほか、参加者のハバロフスク空港—宿泊ホテル間、宿泊ホテル—展示会場間の送迎についても無料で行うなど、同地方産品の輸出を中心とした海外との取引拡大や投資・観光客誘致促進に向けた強い意気込みが感じられた。

主催者の発表によると、開催期間中に輸出及び投資に関し、海外企業との間で17件の合意書及び意向確認議事録 (MOU) が調印された。大半が中国企業との合意であり、中でも最大の案件は黒龍江省企業の投資により、ハバロフス

ク地方に木材加工の合併企業を設立し、製品をロシア国内販売のほか中国に輸出するという案件であるとしている。このほか、ハバロフスク産有機肥料の対中国輸出、農産物のアジア太平洋諸国への輸出や、中国人観光客向けの旅行サービスの提供案件などが挙げられている。

今回、新潟県ブースに出展した県内商社2社によれば、具体的契約に至るまでの成果はなかったが、一定の手応えは感じたとしている。現在、新潟とロシア極東との定期航空路や航路が就航していないというマイナスの環境に加えて、対ロシア貿易、特に輸出については手続きや

商習慣の面でハードルが高いと感じている県内企業も多いのが現状である。こうした中、ロシアでの新潟県産品販路拡大のためには、継続したPRの取組や信頼のおける現地パートナーの発掘が必要であり、その点、市場や貿易実務に精通した地域商社の果たす役割も大きいと考える。ERINAとしても、今後も新潟県を始め関係機関や団体、企業と連携・協力しながら対ロシアビジネスの支援に取り組んでいきたいと考えている。

最後に、国際ビジネスデイが来年以降も継続開催される場合、ハバロフスク地方と海外パートナーにとってより有意義なイ

ベントとなることを期待し、運営面で感じた以下の点について、主催者であるハバロフスク地方政府や協力機関である極東商工会議所に提案したい。

- (1) より多くの地元企業関係者の集客を図るため、休日ではなく労働日での開催とすること。また、開催期間を2.5日ではなく2日間とすること。
- (2) ハバロフスク地方の有力企業・工場・店舗などの視察を設定すること。
- (3) ハバロフスク地方の輸出・投資・観光のプレゼンテーションにおいては、例えば、経済特区への入居企業から実際の優位点や課題を報告してもらうこと。